

平成21年 5 月 15日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18406034
 研究課題名（和文） 海外在留邦人精神科救急事例の受療経路と転帰に関する広域実態調査
 研究課題名（英文） A field survey for the traceable mental health support of overseas Japanese psychiatric emergency cases.

研究代表者
 鈴木 満（SUZUKI MITSURU）
 岩手医科大学・医学部・准教授
 研究者番号：10196876

研究成果の概要： 世界 18 都市の外務省在外公館の邦人保護担当領事および医務官を対象として、海外渡航中に在外公館で保護された邦人精神科救急事例に関する半構造化面接を施行し、国境を跨ぐことによる精神医療サービスの分断の実態を明らかにした。対象事例のうち、半数が日本で治療歴があり、日本の医療機関からの紹介状を持っていた事例は皆無であった。対象の半数が現地で入院治療となり、帰国し治療継続となったのは入院者が 8.8%、通院者が 13.7% にすぎず、26.4%の転帰は不明であった。複数の治療分断の要因を検討した結果、国内外の治療者間の医療情報共有および帰国事例の空港での受け入れ体制整備が特に重要な課題であると考えられた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
2007 年度	4,900,000	1,470,000	6,370,000
2008 年度	3,300,000	990,000	4,290,000
総計	13,200,000	3,960,000	17,160,000

研究分野：医歯薬学 B

科研費の分科・細目：精神神経科学

キーワード：海外在留邦人、精神科救急、地域精神科医療、精神保健、医療・福祉

1. 研究開始当初の背景

われわれは先行調査により、精神障害のため外務省在外公館に保護される邦人の大半が精神科救急事例であり、現地での入院治療や帰国搬送が、非専門家により多大な困難のもとに行われていることを明らかにした。彼らが救急事例化する要因は、第一に専門家による精神医学的介入の遅延であり、第二に国境を跨ぐことによる医療サービスの分断と考えた。海外渡航邦人に速やかな危機介入と治療導入とを行い、なおかつその後の国内外における治療プランを策定するためには、医療サービスの分断を引き起こす受療経路に関する実態把握と、現地精神保健資源に関する情報収集が不可欠であり、そのためには国内外の精神保健専門家間の連携が求められ

ていた。

2. 研究の目的

世界各地における邦人精神科救急事例の発生状況および発生要因と、各事例の国内外にわたる受療経路および転帰について縦断的に明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 邦人精神科救急事例に関する半構造化面接

外務省在外公館邦人保護担当領事および医務官を対象に、邦人精神科救急事例の受療行動に関する半構造化面接を行った。訪問都市は以下の通り。

アジア地域：バンコク、シンガポール、ジャカルタ、マニラ、北京、上海

欧州地域：ロンドン、パリ、デュッセルドルフ、フランクフルト、ミュンヘン、ブリュッセル、ローマ

北米地域：バンクーバー、ニューヨーク、サンフランシスコ、ワシントン DC

南米地域：サンパウロ

(2) 海外在住邦人精神保健専門家との連携会議の開催

現地邦人コミュニティにおける精神保健ネットワーク構築を支援し、地域ごとの広域連携会議を実施することにより、継続的な精神科救急医療資源情報の共有化と国内外医療機関の連携強化を図った。

(3) 成田地区精神医療機関に対する聞き取り調査

成田赤十字病院、千葉県精神医療センター、成田国際空港クリニック、国立国際医療センター、外務省海外邦人安全課の担当者とは邦人精神科救急事例の国内受け入れの状況および課題について情報交換を行った。

(4) 大規模緊急事態や新型インフルエンザ発生時における在留邦人コミュニティ内のメンタルヘルスに関する聞き取り調査

同時多発テロが発生し今なおトラウマ関連障害を認めるニューヨーク、ワシントン DC ならびに新型インフルエンザ発生について不安が強い北京、ジャカルタ、バンコク在留邦人社会における生活、治安上の不安などについて聞き取り調査を行った。

4. 研究成果

平成 18 年度：フランクフルト、ミュンヘン、デュッセルドルフ、ローマ、パリ、ブリュッセル、ロンドン、バンクーバー、シンガポール、ニューヨーク、マニラ、北京の 11 都市を訪問し、上記半構造化面接を行うとともに、現地精神科医療機関や緊急医療搬送会社を訪問し、邦人精神科救急事例の受け入れ状況などについて聞き取り調査を行った。合計 74 事例に関する半構造化面接結果を解析したところ、その約半数が日本で精神科受診歴を持っているにもかかわらず紹介状を持参していた事例が 1 例もないなど、渡航による治療分断の実態が明らかとなった。また、聞き取り調査を通して深めたロンドン、パリ、シンガポール、ニューヨーク在住の邦人精神保健専門家達との職際の連携を継続すべく、新たな情報ネットワーク作りに着手した。

平成 19 年度：上海、北京、パリ、ロンドン、シンガポール、バンコク、ジャカルタの 7 都

市を訪問し、上記半構造化面接を継続した。これに加えて、在留邦人コミュニティにおける邦人精神保健専門家ネットワーク構築を継続支援した。前年度に在ニューヨーク日本総領事館で開催した現地在住邦人精神保健専門家連携会議に続き、在タイ日本大使館および在フランス日本大使館において同会議を開催し、邦人精神科救急事例に対する国内外の診療連携について協議した。これらの会議を通して、海外での大規模緊急事態に巻き込まれた邦人および援護者のトラウマ関連障害の実態についても調査を進め、新型インフルエンザ発生による邦人コミュニティや海外駐在員の職域への心理的影響について情報収集した。

第 15 回日本精神科救急学会ではワークショップ「海外邦人の精神科救急 - 自殺から緊急帰国事例まで -」を企画した。研究代表者が主宰した第 13 回多文化間精神医学ワークショップでは、主会場の盛岡と副会場のシンガポールとをテレビ電話で結び、2 都市間の討論を行った。このワークショップのねらいの 1 つは、海外邦人コミュニティ支援を通じた精神科救急事例化の予防であり、シンガポール在住邦人精神保健専門家によるネットワーク作りを継続的に支援した。

平成 20 年度：ニューヨーク、バンコク、シンガポール、サンパウロ、ロンドン、サンフランシスコの 6 都市を訪問した。上記半構造化面接を継続し、合計 102 事例を対象に海外渡航による精神医療の分断現象とその要因について再検証した(図 1)。なお、わが国を含むアジア地域における精神科医療システムおよび薬物療法の地域別特性に関する継続的な調査結果より、邦人精神科救急事例への国際医療連携の課題について検討した。

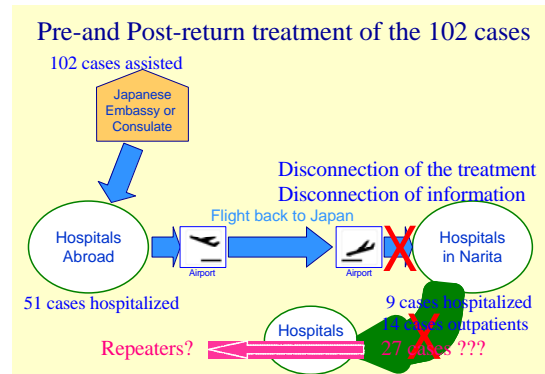


図 1： 102 事例のうち、半数が日本で治療歴があり、日本の医療機関からの紹介状を持っていた事例は皆無であった。50%が現地で入院治療となり、帰国し入院治療となったのは 8.8%、通院治療となったのは 13.7%であった。26.4%の転帰は不明であった。国内外において治療分断を引き起こす複数の要因が抽出されたが、特に国内主治医からの情報提供と国内国際空港での帰国事例受け入れ体

制の不備が重要であると考えられた。

また、ニューヨークにおいて米国東部地域 3 都市(ニューヨーク、ワシントン DC、フィラデルフィア)間の邦人精神医療広域連携会議を、バンコクにおいて東南アジア地域 3 都市(バンコク、ジャカルタ、シンガポール)間の連携会議を企画し、それぞれの地域における現状と課題について情報交換を行い、邦人精神科救急事例対策について協議した。一方、成田国際空港における精神医療分断対策を検討すべく、邦人精神科救急搬送事例への医療介入阻害要因について、成田赤十字病院、千葉県精神医療センター、成田空港クリニック、国立国際医療センター、外務省海外邦人安全課の担当者より聞き取り調査を行った(調査費用の一部は日本精神科救急学会国際交流委員会より助成された)。

平成 20 年 10 月に開催された環太平洋精神保健会議におけるワークショップ International and multidisciplinary collaboration for overseas psychiatric emergency cases では、邦人精神科救急事例を多数受け入れてきたパリのサンタンヌ病院およびシンガポールのインターナショナル SOS から演者を招聘して国内外の医療連携と多職種協働による危機介入のあり方について協議し、治療分断対策として国内外精神医療機関の多言語医療情報提供システムの構築と国内空港における精神医療サービスの整備について提言した(図 2)。

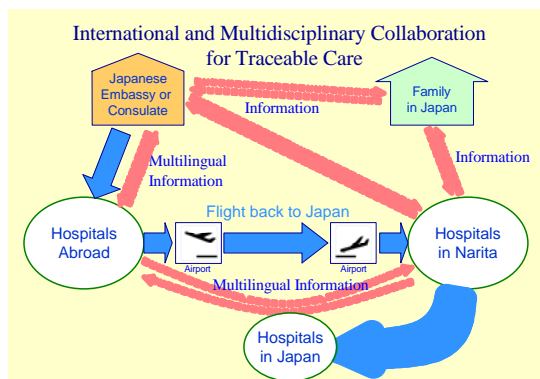


図 2 : 国境を跨ぐ継続的精神科ケアの多職種連携のあり方。医療システム、精神保健福祉関連法、個人情報保護等の国による違いを超越した専門家ネットワーク構築について議論した。

一方、平成 21 年 3 月に開催された第 16 回多文化間精神医学会でのシンポジウム「海外邦人コミュニティのメンタルヘルス支援と地域間連携」では、精神科救急事例化予防として海外邦人コミュニティに対するメンタルヘルス後方支援および災害弱者としての海外渡航邦人への支援強化に向けた、海外在住邦人精神保健専門家の世界ネットワーク構築について提言を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 25 件)

- 1) 鈴木 満, 仲本光一, 吾妻 壮他 計 8 名 (重村 淳 7 番目): 海外在留邦人 100 万人時代のメンタルヘルス対策 -第一報: 米国北東部地域における邦人メンタルヘルス専門家の連携. *こころと文化* 8: 69-76, 2009, 査読あり
- 2) 重村 淳, 岩瀬功子, キーン岡崎響子他 計 6 名: ワシントンDC地区における日本人メンタルヘルス専門家ネットワークの構築. *こころと文化* 8: 62-68, 2009, 査読あり
- 3) Shigemura J, Fullerton CS, Ursano RJ 他 計 7 名: Perception of safety among the Japanese residents in the Washington DC area. *World Cultural Psychiatry Research Review* (in press), 2009, 査読なし
- 4) 神山昭男, 鈴木 満: 海外邦人の精神科救急. 自殺から緊急帰国事例まで. *精神科救急* 11: 66-69, 2008, 査読なし
- 5) 勝田吉彰: 中国駐在員を取り巻くストレス状況の最近の変化 -駐在員・家族への聞き取りから-. *臨床精神医学* 37(3): 323-325, 2008, 査読あり
- 6) 勝田吉彰: 精神科領域における新型インフルエンザ対策. *精神科治療学* 23: 908-911, 2008, 査読あり
- 7) Shinfuku N, Tan CH: Pharmacotherapy for schizophrenic inpatients in East Asia -changes and challenges. *Int Rev Psychiatry* 20(5): 460-468, 2008, 査読あり
- 8) Tan CH, Shinfuku N, Sim K: Psychotropic prescription practices in East Asia: looking back and peering ahead. *Curr Opin Psychiatry*. 21(6): 645-650, 2008, 査読あり
- 9) Sim K, Chuan Su H, Fujii S 他 計 13 名 (Shinfuku N 10 番目): Low doses of antipsychotic drugs for hospitalized schizophrenia patients in East Asia: 2004 vs. 2001. *Int J Neuropsychopharmacol* 18: 1-7, 2008, 査読あり
- 10) 重村 淳, 武井英理子, 徳野慎一他 計 6 名: 遺体関連業務における災害救援者の心理的反応と対処方法の原則. *防衛衛生* 55: 163-168, 2008, 査読あり
- 11) 野田文隆: 「こころと文化」をめぐる最

- 近の話題. 心と社会 38(2): 200-204, 2007, 査読あり
- 12) 野田文隆: 人知れず悩む海外赴任者たち -メンタルヘルスの問題をどう考え, 対処するか-. 月間グローバル経営 4月号: 4-8, 2007, 査読なし
 - 13) 倉林るみい: 海外での女性のメンタルヘルス. 海外勤務と健康 26: 13-16, 2007, 査読なし
 - 14) 倉林るみい: 海外勤務者のこころの健康. 労働の科学 62(7): 8-11, 2007, 査読あり
 - 15) 勝田吉彰: 中国における邦人勤務者のメンタルヘルス事情. 産業精神保健 15(2): 85-88, 2007, 査読あり
 - 16) 井村倫子: 在バンコク邦人の精神保健と文化変容 -駐在員配偶者を中心とした一考察-. こころと文化 6(2): 149-156, 2007, 査読あり
 - 17) Uchida N, Chong MY, Tan CH他 計 17名 (Shinfuku N 17 番目): International study on antidepressant prescription pattern at 20 teaching hospitals and major psychiatric institutions in East Asia: Analysis of 1898 cases from China, Japan, Korea, Singapore and Taiwan. Psychiatry Clin Neurosci. 61(5): 522-528, 2007, 査読あり
 - 18) Sim K, Lee NB, Chua HC他 計 17名 (Shinfuku N 14 番目): Newer antidepressant drug use in East Asian psychiatric treatment settings: REAP (Research on East Asia Psychotropic Prescriptions) Study. Br J Clin Pharmacol. 63(4): 431-437, 2007, 査読あり
 - 19) Shinfuku N: Disaster mental health: lessons learned from the Hanshin Awaji earthquake. World Psychiatry 1(3): 158-159, 2007, 査読あり
 - 20) 鈴木 満: 環境適応の神経生物学的基盤 -神経可塑性と文化-. こころと文化 5(2): 112-115, 2006, 査読あり
 - 21) 勝田吉彰: 大規模感染症流行が及ぼす心理的影響と対策 -SARSの経験から新型インフルエンザパンデミックへ- 臨床精神医学 35: 1719-1722, 2006, 査読あり
 - 22) 勝田吉彰: 中国における邦人のメンタルヘルス. 海外勤務と健康 24: 38-40, 2006, 査読なし
 - 23) Yoshimura R, Okamoto T, Nakamura J他 計 14名 (Shinfuku N 14 番目): Prescription pattern of antipsychotic drugs for schizophrenic inpatients in Japan: research on East Asia Psychotropic Prescription Pattern-Antipsychotics study. Psychiatry Clin Neurosci. 60(6): 778-779, 2006, 査読あり
 - 24) Imura T: Culturally Based Intervention for Post Traumatic Stress. Hitotsubashi Journal of Social Studies 38(1): 23-32, 2006, 査読なし
 - 25) Fullerton CS, Ursano RJ, Reeves J他 計 5名 (Shigemura J 4 番目): Perceived safety in disaster workers following 9/11. Journal of Nervous and Mental Disease 194: 61-63, 2006, 査読あり
- [学会発表] (計 30 件)
- 1) 鈴木 満: 海外邦人コミュニティにおけるメンタルヘルス支援の動向. 第 16 回多文化間精神医学会 (川崎), 2009. 3. 28
 - 2) 井村倫子: バンコクにおける邦人メンタルヘルス専門家の連携. 第 16 回多文化間精神医学会 (川崎), 2009. 3. 28
 - 3) 勝田吉彰: 「新型インフルエンザの影」の中国邦人社会への心理的影響. 第 16 回多文化間精神医学会 (川崎), 2009. 3. 28
 - 4) 大橋敏子, 大西 守, 井上孝代: 外国人留学生のメンタルヘルスのための危機介入ガイドライン策定の試み. 第 16 回多文化間精神医学会 (川崎), 2009. 3. 28
 - 5) 野田文隆, 阿部 裕, 井上孝代他 計 18名 (倉林るみい 12 番目): 日本に暮らす外国人のメンタルヘルス上のHelp-seeking行動の研究(6) -マイノリティの精神保健サービス利用の抵抗について-. 第 16 回多文化間精神医学会 (川崎), 2009. 3. 28
 - 6) 重村 淳: ワシントンDC邦人コミュニティにおけるメンタルヘルス専門家の連携. 第 16 回多文化間精神医学会 (川崎), 2009. 3. 28
 - 7) 重村 淳, 野村総一郎: 在留邦人は災害弱者である: 9/11 と日本人メンタルヘルス専門家. 日本トラウマティック・ストレス学会第 8 回大会 (東京), 2009. 3. 15
 - 8) Suzuki M: Disconnection of mental health care found in Japanese emergency psychiatric cases abroad. 13th Pacific rim college of psychiatrists scientific meeting (Tokyo), 2008. 11. 2
 - 9) Shigemura J, Fullerton CS, Ursano RJ 他 計 7 名: Planning for terrorism: Japanese community in the Washington DC area. The 13th Pacific Rim College of

- Psychiatrists Scientific Meeting (Tokyo), 2008.10.31
- 10) Ukawa K, Noda F and Tezuka C: Analysis of the Vietnamese's concept and helpseeking behavior on their family's depression. -Comparative study among Japan, Canada and Vietnam -. 13th Pacific rim college of psychiatrists scientific meeting (Tokyo), 2008.10.31
 - 11) Shinfuku N: Factors Contributing to the Views on Psychiatric Classification Systems in East Asia. 13th Pacific rim college of psychiatrists scientific meeting (Tokyo), 2008.10.30
 - 12) Shigemura J: Epidemiology, risk factors, and resilience in PTSD. 2nd World Federation of Societies of Biological Psychiatry Asia-Pacific Congress and 30th Annual Meeting of Japanese Society of Biological Psychiatry (Toyama), 2008.9.13
 - 13) Suzuki M: The Growing Need for Multicultural Services in the Regional Psychiatry System in Japan. First International Symposium of Transcultural Psychiatry (Sao Paulo, Brazil), 2008.8.30
 - 14) Abe Y: A Saúde Mental de estrangeiros no Japão. First International Symposium of Transcultural Psychiatry (Sao Paulo, Brazil), 2008.8.30
 - 15) 勝田吉彰: 新型インフルエンザ流行の社会不安を緩和する情報提供法の追求 -SARSの経験から新型インフルエンザ報道への提言-. 日本保健医療社会学会 (八王子), 2008.5.17
 - 16) 重村 淳, 武井英理子, 徳野慎一他 計 4 名: 救援者の遺体関連業務: メンタルヘルスへの影響と対策. 第 7 回日本トラウマティック・ストレス学会 (福岡), 2008.4.20
 - 17) 村上裕子, 鈴木 満, 井上孝代他: 海外駐在員や家族を支えるコミュニティへの支援と支援者 -シンガポール邦人コミュニティでの試みと展望. 多文化間精神医学会 (東京), 2008.3.21
 - 18) 重村 淳, 美甘克明: ワシントンDCにおける在留邦人のためのメンタルヘルス・サービス: 事例介入から大規模災害対策まで. 第 15 回多文化間精神医学会 (東京), 2008.3.21
 - 19) 鈴木 満: 海外邦人精神科救急事例の受療パターン. 第 15 回日本精神科救急学会 ワークショップ「海外邦人の精神科救急 - 自殺から緊急帰国事例まで-」 (さいたま), 2007.9.27
 - 20) Nagamine M, Katsu T, Kato T他 計 10 名 (Shigemura J 7 番目, Shinfuku N 10 番目): Japanese psychiatrists' views on global features of ICD-10 and DSM-IV: a questionnaire survey in Japan. World Psychiatry Association Regional Meeting 2007 (Seoul, South Korea), 2007.4.29
 - 21) Suzuki M: Disconnection of mental health care found in emergency psychiatric cases abroad. World Psychiatric Association-Transcultural Psychiatry Section, Japanese Society of Transcultural Psychiatry, Joint Meeting in Kamakura (Kamakura), 2007.4.27
 - 22) Abe Y: Psychological Problems of Latin American outpatients in Japan. World Psychiatric Association-Transcultural Psychiatry Section, Japanese Society of Transcultural Psychiatry, Joint Meeting in Kamakura (Kamakura), 2007.4.27
 - 23) Shigemura J他 計 8 名: Depression and life satisfaction among the Japanese individuals in the Washington, D.C. Area. World Psychiatric Association-Transcultural Psychiatry Section, Japanese Society of Transcultural Psychiatry, Joint Meeting in Kamakura (Kamakura), 2007.4.27
 - 24) Shigemura J他 計 7 名: Fear of terrorism and perception of safety among the Japanese residents in the Washington, D.C. area. World Psychiatric Association-Transcultural Psychiatry Section, Japanese Society of Transcultural Psychiatry, Joint Meeting in Kamakura (Kamakura), 2007.4.27
 - 25) 重村 淳, 鹿島晴雄, 野村総一郎: ワシントンDC地区の在留邦人におけるうつ病の規定因子. 第 26 回日本社会精神医学会 (横浜), 2007.3.23
 - 26) Suzuki M: The growing need for multicultural services in the Japanese emergency psychiatry system. フィリピン精神医学会 (Manila, Philippines), 2007.3.13

- 27) Shinfuku N: Disaster and international cooperation in mental health- experiences after great Hanshin-Awaji earthquake-. フィリピン精神医学会 (Manila, Philippines), 2007. 3. 13
- 28) Shigemura J, Fullerton CS, Ursano RJ 他計7名: Perceived safety among Japanese individuals in the Washington D.C. area. International Society of Traumatic Stress Studies 22nd Annual Meeting (Hollywood, USA), 2006. 11. 6
- 29) Shigemura J, Fullerton CS, Ursano RJ 他計7名: Preparing for terrorism: A study of Japanese community in the Washington D. C. area. IV World Congress on Traumatic Stress (Buenos Aires, Argentina), 2006. 6. 21
- 30) 鈴木 満: これからの地域精神医療システムにおける総合病院 24 時間型精神科救急医療のあり方. 第 9 回日本臨床救急医学会教育講演 (盛岡), 2006. 5. 11

[図書] (計 6 件)

- 1) 鈴木 満: 精神科救急ケースFile. 中外医学社, 総 185 頁, 2009
- 2) Noda F: Anxiety, Acceptance and Japanese Healing: The Role of Traditional Healing in Japanese Mental Health. in PSYCHIATRISTS AND TRADITIONAL HEALERS UNWITTING PARTNERS IN GLOBAL MENTAL HEALTH, Wiley, USA, (in Press), 2009
- 3) 倉林るみい: 海外駐在員. メンタルヘルスケア実践ガイド 第 2 版(和田攻ほか編), 産業医学振興財団, 412-415 (総 574 頁), 2008
- 4) 倉林るみい: 海外赴任. 産業精神保健マニュアル (日本産業精神保健学会編), 中山書店, 412-418 (総 632 頁), 2007
- 5) 齋藤高雅: 他職種との連携. 臨床心理学面接特論 (大場登, 小野けい子編著), 放送大学教育振興会, 103-113 (総 337 頁), 2007
- 6) 齋藤高雅: 臨床心理学研究法特論. 放送大学教育振興会, 総 227 頁, 2006

[その他] (計 16 件)

- 1) 多文化間精神医学会ホームページ
「在日外国人サービス」
- 2) 鈴木 満: 英国地域精神医療におけるうつ病対策と復職支援. うつ病者に対するリハビリテーション・システム構築のための

調査研究報告書, 日本精神保健福祉連盟, 2009

- 3) 山田和夫: 自殺の国際比較 -その文化的・社会的・地理的背景について-. 第 16 回多文化間精神医学会 (川崎), 2009. 3. 28
- 4) 重村 淳: 惨事ストレスの理解. 日本トラウマティック・ストレス学会第 8 回大会プレコングレス 惨事ストレス・セミナー (東京), 2009. 3. 13
- 5) 鈴木 満: 海外邦人コミュニティ間におけるメンタルヘルス相互支援. 在東南アジア邦人精神保健専門家連携会議, 在タイ日本国大使館 (Bangkok, Thai), 2008. 6. 29
- 6) 鈴木 満: 海外邦人コミュニティ間の連携と後方支援. パネルディスカッション「海外邦人メンタルヘルスコミュニティ間のネットワーク構築」. ジャムズネットヘルスウィーク, ニューヨーク日系人会 (New York, USA), 2008. 5. 23
- 7) 重村 淳: ワシントンDCにおける在留邦人のためのメンタルヘルス・サービス: 事例介入から大規模災害対策まで. パネルディスカッション「海外邦人メンタルヘルスコミュニティ間のネットワーク構築にむけて」. ジャムズネットヘルスウィーク, ニューヨーク日系人会館 (New York, USA), 2008. 5. 23
- 8) 鈴木 満: 海外在留邦人および海外渡航邦人に対する精神保健援助システム. 多文化間精神医学専門アドバイザー研修 (東京), 2008. 3. 22
- 9) 鈴木 満: 海外在留邦人コミュニティにおけるメンタルヘルス. シンガポールメディカルスタッフの会 (Singapore), 2008. 1. 27
- 10) 鈴木 満: 大規模緊急事態援護担当者のためのメンタルヘルス・ガイドライン(共著). (多文化間精神医学会編), ワールドプランニング, 総 38 頁, 2007
- 11) 鈴木 満: 海外在留邦人及び海外渡航邦人に対する精神保健援助システム. バンコク在留邦人精神科救急事例に関する連絡会議, 在タイ日本国大使館 (Bangkok, Thai), 2007. 11. 2
- 12) 鈴木 満: 海外在留邦人及び海外渡航邦人に対する精神保健援助システム. パリ在留邦人精神科救急事例に関する連絡会議, 在仏日本国大使館 (Paris, France), 2007. 10. 9
- 13) 重村 淳: 海外生活におけるストレス対処法. 在米日本大使館 (Washington DC,

USA), 2007. 9. 13

- 14) 重村 淳: 災害救援者・援護者のメンタルヘルス. 在ニューヨーク日本国総領事館 (New York, USA), 2007. 9. 10
- 15) 鈴木 満: 海外在留邦人および海外渡航邦人に対する精神保健援助システム. 在ニューヨーク日本国総領事館 (New York, USA), 2007. 2. 9
- 16) 鈴木 満 責任編集: 特集 神経科学が多文化間精神医学に語りかけるもの. こころと文化 5(2): 112-153, 2006

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 満 (SUZUKI MITSURU)
岩手医科大学・医学部・准教授
研究者番号: 10196876

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者 (50 音順)

阿部 裕 (ABE YU)
明治学院大学・心理学部・教授
研究者番号: 90138248

井上 孝代 (INOUE TAKAYO)
明治学院大学・心理学部・教授
研究者番号: 30242225

井村 倫子 (IMURA TOMOKO)
一橋大学・経済学研究科・講師
研究者番号: 50361853

勝田 吉彰 (KATSUTA YOSHIAKI)
近畿福祉大学・社会福祉学部・教授
研究者番号: 00258229

倉林 るみい (KURABAYASHI LUMIE)
独立行政法人労働安全衛生総合研究所・有害性評価研究グループ・上席研究員
研究者番号: 00333378

齋藤 高雅 (SAITO TAKAMASA)
放送大学・教養学部・教授
研究者番号: 90082065

重村 淳 (SHIGEMURA JUN)
防衛医科大学・精神科・講師

新福 尚隆 (SHINFUKU NAOTAKA)
西南学院大学・人間科学部・教授
研究者番号: 00263369

富永 真己 (TOMINAGA MAKI)
兵庫医療大学・看護学部・准教授
研究者番号: 40419974

野田 文隆 (NODA FUMITAKA)
大正大学・人間学部・教授
研究者番号: 30317648

山田 和夫 (YAMADA KAZUO)

東洋英和女学院大学・人間科学部・教授
研究者番号: 50200712